

短い夏休みが終わり2学期が始まりました。少しは休養が取れたでしょうか。感染症対策を行いながらの体育大会を成功させるべく、1学期の終わってから夏休みも、そしてまさに今も3年生の皆さんが頑張っている姿があります。体育大会の終わったときには、精いっぱいやりきった顔がたくさん見えることを願っています。1・2年生の皆さんは3年生の雄姿・リーダーシップを目に焼き付けておいてください。1、2年後のそこに君たちはいます。競技に一生懸命取り組み、仲間の応援をして、よい体育大会が開催できるようにみんなで協力していきましょう。

そして体育祭が終わると…読書の秋です。良い本を手に取り、心豊かになる時を過ごしてみませんか。

新刊本紹介（以下の13冊が入りました。図書館入り口の新刊コーナーにあります）

	書名	著者名	発行所
1	3月のライオン（14）	羽海野チカ	白泉社
2	3月のライオン（15）	羽海野チカ	白泉社
3	カラダ探し【上】	ウエルザード	スターツ出版
4	カラダ探し【下】	ウエルザード	スターツ出版
5	民王	池井戸潤	文春文庫
6	小説の神様—あなたを読む物語【上】	相沢沙呼	講談社タイガ
7	小説の神様—あなたを読む物語【下】	相沢沙呼	講談社タイガ
8	受験脳の作り方—脳科学で考える効率的学習法	池谷裕二	新潮文庫
9	君が夏を走らせる	瀬尾まいこ	新潮社
10	ぼくは勉強ができない（改版）	山田詠美	新潮文庫
11	勝てるメンタル—青学駅伝選手たちが実践！	原晋・根来秀行	KADOKAWA
12	悔しがるカー弟子 藤井聡太の思考法	杉本昌隆	PHP研究所
13	人生はワンモアチャンス！—「仕事」も「遊び」もさらに楽しくなる66の方法	水野敬也・長沼直樹	文藝社

新刊本より特にオススメの本は、この一冊です！

『悔しがる力ー弟子藤井聡太の思考法』 作者 棋士 杉本昌隆 PHP研究所

先日、18 歳という史上最年少記録で二冠を達成した藤井聡太君について、彼の師匠である杉本昌隆氏を書いた本です。藤井君はどんな子どもだったのか。是非ともこの本を読んでみてください。

今の時代『悔しい』と口に出すことや、実現できないことにいつまでもこだわる「あきらめない」気持ちははやりません。負けても地団駄を踏んだり、躍起になって怒ったりすることが、どこかカッコ悪いと思われているのでしょうか。しかし、藤井七段をはじめ、スポーツ選手など各界の最前線で活躍している人たちは、総じて並外れた負けず嫌いです。そして、決してあきらめません。彼は彼女たちの心の底で燃え盛っているのは、まぎれもなく「悔しい」という感情、そして「不屈」の精神でしょう。つまり悔しがること、あきらめの悪さは一つの力だと言えます。（本文「はじめに」より引用）

新任の先生方からのオススメ本を紹介します

英語科 曾我部 先生 『ぼくは勉強ができない』

出版社：新潮文庫

著者：山田詠美



17 歳の秀美君が主人公の元気はつらつな青春小説です。タイトルにも心惹かれます。

「ぼくは確かに成績が悪いよ。でも、勉強よりも素敵で大切なことがいっぱいあると思うんだ。」

「すべてに、丸をつけよ。とりあえずは、そこから始めるのだ。そこからやがて生まれて行くたくさんのぼつを、ぼくはゆっくり選び取って行くのだ。」

「人が人を無責任な立場から裁くことなんてできないよ。」

など、秀美君の視点が鋭く、ハッとさせられ、痛いところをつかれたな、と心の機微に触れる表現が満載です。短編連作小説で、どのストーリーも興味深い内容です。勉強はできないけどモテる秀美君、勉強はできるけどモテない脇山、同級生、年上の彼女、ユーモアある家族など、登場人物も魅力的です。読み終えた後には、自分自身の価値観・生き方についても考えさせられるものがあります。

高校生ならではの心の中の葛藤の描写等、共感できる部分がたくさんあります。ぜひご一読を。